

SLAVIC RESEARCH CENTER NEWS

No. 134 August 2013



グローバルCOE

◆ 第4回国際サマースクールの開催 ◆



セルゲーニン教授の講義



参加者集合

北大GCOE「境界研究の拠点形成」は、若手研究者の育成・教育と国際化を目的の一つとしており、毎夏、短期集中の教育プログラムを実施しています。本年度は、「Borders in Eurasia」と題し、7月29日～8月1日にわたり、スラブ研究センター大会議室でおこなわれました。サマースクールと夏期国際シンポジウムは連続した日程で開催されたため、サマースクール参加者は計1週間にわたるプログラムに参加するという形になりました。履修者は、国籍ベースで、ロシア、カザフスタン、タジキスタン、中国、インド、スペイン、イギリス、日本と8カ国に及び、連日、講師との間で英語による活発な質疑がおこなわれました。国際シンポジウムにおける報告者は、サマースクールの講義陣に加わり、かつ若手報告会での確かな質問をおこなったことにより、単なる事象紹介に留まらない高いレベルの議論が交わされました。

GCOE 予算によるサマースクールは本年度で終了となりますが、過去に本サマースクールに参加した若手研究者達の何人かは学会で重要な役割を担い始めており、今後、一層の飛躍が期待されます。[藤森]

◆ 夏期国際シンポジウムの開催 ◆



満席となった北極海セッション

サマースクールに引き続き、8月2～3日に、センター大会議室でGCOE国際シンポジウム「境界研究：21世紀のチャレンジと展望」が開催されました。テーマ、地域毎に5セッション、2ランチョンセミナーの計7セッションが生まれ、最後の第5セッションでは、多様な対象地域・テーマを総括する形で「境界研究は新たな世界政治に向けたコンパスか？」と題したラウンドテーブルが配されました。「北極圏」問題を扱った第2セッション

は、世界的なビッグネームが一堂に会するものとなり、地域の専門性が高いにも関わらず、他の境界研究者達と白熱した議論が交わされました。なお、本セッションは、北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）協賛イベントとして、同時通訳が提供され、日本語話者も議論に参加する形となりました。

第3セッション「境界と言語」は野町推進員が、第4セッション「チェルノブイリ・福島と世界」は家田推進員がそれぞれ担当しました。報告者の国別内訳は国籍ベースで、日本、アメリカ、カナダ、ロシア、フィンランド、イギリス、ポーランド、ウクライナの8カ国、2日間の参加者はのべ100名に達しました。[藤森]

◆ 第9期展示「境界研究：日本のパイオニアたち」開催中 ◆

2013年6月1日から8月25日まで、北海道大学総合博物館において、境界研究の先人たちの足跡を辿る企画として、香月泰男と工藤信彦に焦点を当てたパネル展示をおこなっています。香月泰男（1911-74）はシベリア抑留による境界移動の心象を中心題材として描いた画家で、工藤信彦（1930-）は境界移動によって失われた生地、樺太の位置づけを問う詩人・文筆家です。9月からは国際政治学者秋野豊、農民学者・社会運動家宮本常一に焦点を当てた展示を予定しています。[藤森]

本展示に関連したセミナーを開催中です（北大総合博物館「知の交流コーナー」）

- ・9月21日（土）13:30～ 安溪遊地（山口県立大学）「宮本常一と歩く国境の島じま」
- ・10月19日（土）13:30～ 秋野豊氏関連のセミナーを予定

研究の最前線

◆ 北大祭期間中に研究所一般公開を開催 ◆

昨年度、北海道大学の3研究所（低温科学研究所、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所）が、新たな試みとして北大祭期間中に一般公開を開催しましたが、今年度はこれに創成研究機構とスラブ研究センターも加わり、5研究所・センター一般公開を6月8日に開催しました。

文系の場合、理系のように実験や体験によって研究内容を説明することは難しく、またセンターは他の研究所から位置的に離れているため、どのくらいの入場者があるか不安でしたが、当日は二百数十名の一般市民にご来訪いただきました。5研究所合同のシールラリーに参加する小学生たちや家族連れ、学生のほか、日ごろセンターの講演会・研究会によく参加して下さる年配の常連の方々も多く来られました。



展示コーナーのようす

展示としては、センターの歴史や出版物の紹介のほか、センターの教員・研究員・大学院生の協力により、中央アジア・モンゴルのカラフルな民族衣装や帽子、ロシアのマトリョーシカやサモワールをはじめとする工芸品、スラブ・ユーラシア諸国の紙幣などを用意しました。その中には、経済混乱期のインフレでゼロが11個も付いたユーゴスラヴィア（当時）の紙幣や、国際的には独立未承認の沿ドニエストル共和国の紙幣など、極めて珍しいものもありました。また、外国人研究員のイリヤ・ザイツェフ氏の提供により、タタール人のイスラーム芸術の一つである絵（シャマイル）も展示しました。



恰幅のいい人に似合いそうな民族衣装

研究をわかりやすく紹介するトークとしては、以下の3件の講演をおこないました。

- ・岩下明裕 「国境から世界を革命する：ユーラシアのなかの日本」
- ・越野 剛 「風土と国のイメージ：冬将軍とロシア」
- ・宇山智彦 「外国を研究するという仕事：中央アジア・ロシア研究の現場から」

また、国境問題・境界地域に関するDVDを随時上映しました。

初めての試みで全てが手さぐり状態でしたが、展示や講演について熱心に質問する方々の姿は、センターの研究者にとっても大変励みになるものでした。関係者の皆様にお礼申し上げます。[宇山・藤森]

◆ 共同研究員 ◆

2013年度現在のセンター共同研究員は以下の方々です。(五十音順)

共同研究員 任期：2013年4月1日～2015年3月31日 76名

赤尾光春(大阪大)、秋山徹(早稲田大)、安達祐子(上智大)、阿部賢一(立教大)、飯尾唯紀(城西大)、池田嘉郎(東京大)、諫早勇一(同志社大)、井上まどか(清泉女子大)、岩本和久(稚内北星学園大)、上垣彰(西南学院大)、上田洋子(早稲田大)、上野俊彦(上智大)、江淵直人(北大低温科学研究所)、大串敦(慶応義塾大)、大野成樹(旭川大)、岡奈津子(アジア経済研究所)、小澤実(立教大)、貝澤哉(早稲田大)、片山博文(桜美林大)、加藤美保子(北大文学研究科)、亀山郁夫(名古屋外国語大)、久保慶一(早稲田大)、小松久男(東京外国語大)、小森宏美(早稲田大)、金野雄五(みずほ総合研究所)、左近幸村(日本学術振興会特別研究員)、佐々木史郎(国立民族学博物館)、佐藤圭史(外務省在外公館専門調査員)、塩川伸明、篠原琢(東京外国語大)、志摩園子(昭和女子大)、下里俊行(上越教育大)、下斗米伸夫(法政大)、白岩孝行(北大低温科学研究所)、新免康(中央大)、杉浦秀一(北大メディア・コミュニケーション研究院)、鈴木淳一(札幌大)、仙石学(西南学院大)、高尾千津子(立教大)、高倉浩樹(東北大)、楯岡求美(神戸大)、田畑朋子、月村太郎(同志社大)、鶴見太郎(日本学術振興会特別研究員)、徳永昌弘(関西大)、等々力政彦(トウバ民族音楽家)、鳥山祐介(千葉大)、中地美枝、中野潤三(鈴鹿国際大)、中村唯史(山形大)、長與進(早稲田大)、西山克典(静岡県立大)、沼野充義(東京大)、根村亮(新潟工科大)、野田仁(早稲田大)、野中進(埼玉大)、乗松亨平(東京大)、橋本聡(北大メディア・コミュニケーション研究院)、濱本真実(ジョージ・ワシントン大)、平田武(東北大)、廣瀬陽子(慶應義塾大)、樋渡雅人(北大公共政策学連携研究部)、福田宏(京都大)、前田弘毅(首都大学東京)、松戸清裕(北海学園大)、三谷恵子(東京大)、宮崎悠(成蹊大)、六鹿茂夫(静岡県立大)、望月恒子(北大文学研究科)、本村真澄(石油天然ガス・金属鉱物資源機構)、谷古宇尚(北大文学研究科)、湯浅剛(防衛研究所)、横川和穂(神奈川大)、横手慎二(慶應義塾大)、吉村貴之(東京外国語大)、渡邊昭子(大阪教育大)

地域比較共同研究員 任期：2013年4月1日～2015年3月31日 16名

秋田茂(大阪大)、石田淳(東京大)、川島真(東京大)、高本康子、小松久恵(追手門学院大)、佐藤隆広(神戸大)、武田雅哉(北大文学研究科)、立石洋子(日本学術振興会特別研究員)、田原史起(東京大)、中溝和弥(人間文化研究機構)、任哲(アジア経済研究所)、星野真(早稲田大)、丸川知雄(東京大)、毛里和子(早稲田大名誉教授)、守川知子(北大文学研究科)、山根聡(大阪大)

同 任期2012年10月1日～2014年9月30日 2名

永山ゆかり(北大北方教育研究センター)、劉旭(中国人民大)

境界研究共同研究員 任期：2013年4月1日～2015年3月31日 21名

安溪貴子、石井明(東京大名誉教授)、今西一(小樽商科大)、今野泰三(日本国際ボランティアセンター)、北川真也(三重大)、北村嘉恵(北大教育学研究院)、酒井啓子(千葉大)、佐道明広(中京大)、鈴木一人(北大法学研究科)、樽本英樹(北大文学研究科)、池畑周直美(北大公共政策学連携研究部)、中居良文(学習院大)、八谷まち子(九州大)、前田幸男(大阪経済法科大)、舩田佳弘、宮本万里(国立民族学博物館)、山崎幸治(北大アイヌ・先住民研究センター)、山本順司(北大総合博物館)、吉田修(広島大)、吉見宏(北大経済学研究科)、渡邊浩平(北大メディア・コミュニケーション研究院)

GCOE 共同研究員 任期：2012年4月1日～2014年3月31日 33名

青島陽子（愛知大）、麻田雅文、浅羽祐樹（山口県立大）、天野尚樹（北海道情報大）、荒井幸康、井上暁子、片原栄一（防衛研究所）、加峯隆義（九州経済調査協会）、川久保文紀（中央学院大）、金成浩（琉球大）、グエン・アイン・フォン、草野佳矢子（早稲田大）、黒岩幸子（岩手県立大）、佐藤学（沖縄国際大）、佐藤由紀（早稲田大）、シュラトフ・ヤロスラブ、瀧口順也（龍谷大）、田村慶子（北九州市立大）、土井康裕（名古屋大）、長嶋俊介（鹿児島大）、兵頭慎治（防衛研究所）、プフ・アレクサンダー（筑波大）、古川浩司（中京大）、堀江典生（富山大）、堀場明子（上智大）、前田しほ、松原孝俊（九州大）、水谷裕佳（上智大）、三村光弘（環日本海経済研究所）、山上博信（国立民族学博物館）、山崎孝史（大阪市立大）、山田吉彦（東海大）、屋良朝博（フリージャーナリスト）

◆ 2013 年度科学研究費プロジェクト ◆

2013 年度のセンター教員・研究員が代表を務める文部省科研費補助金による研究プロジェクトは次の通りです。[編集部]

新学術領域研究

田畑伸一郎 『ユーラシア地域大国の比較研究』に関する総括（2013 年度）

基盤研究 (B)

- 松里 公孝 競争的権威主義体制の比較研究（2012-14 年度）
 家田 修 大規模環境汚染事故による地域の崩壊と復興：チェルノブイル、アイカ、フクシマ（2012-15 年度）
 越野 剛 社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究：旧ソ連・中国・ベトナム（2013-16 年度）
 野町 素己 東欧革命以降のスラヴ世界におけるミクロ文語の総合的研究（2013-16 年度）
 原 暉之 サハリン（樺太）島における戦争と境界変動の現代史（2013-16 年度）

基盤研究 (C)

- 高本 康子 近代日本の画像メディアにおける「喇嘛教」表象の研究（2012-16 年度）
 長縄 宣博 軍事と外交から見るソ連の帝国建設：カリム・ハキーモフ（1892-1937）の研究（2013-16 年度）

挑戦的萌芽研究

- 越野 剛 ロシア語文化圏の東西周縁の文学における戦争の語りの比較研究（2012-14 年度）

若手研究 (A)

- 木山 克彦 韃靼・渤海・女真の考古学的研究（2013-16 年度）

若手研究 (B)

- 井上 暁子 ドイツ＝ポーランド国境地帯の文学と移民文学の比較研究（2011-14 年度）
 平山 陽洋 第1次インドシナ戦争期の北ベトナムでの総動員体制の構築と冷戦の影響をめぐる研究（2011-13 年度）
 花松 泰倫 アムールオホーツク生態系の陸海統合管理とラムサール条約の適用可能性（2012-13 年度）
 前田 しほ 20 世紀後半ロシア文化における戦争の記憶表象についてのジェンダー研究（2012-14 年度）
 佐藤 圭史 旧ソ連空間における非承認国家問題（2013-14 年度）
 地田 徹朗 戦後ソ連のアラル海流域環境史：人間活動と生態危機（2013-16 年度）

研究活動スタート支援

- 本田 晃子 ソヴィエト・ロシア建築の全体主義化においてマスメディアの果たした役割の研究（2012-13 年度）

学振特別研究員奨励費

- 菊田 悠 現代中央アジアのムスリム女性の信仰実践の変容と再イスラーム化へのインパクト (2011-13 年度)
- 森下 嘉之 国民国家の形成期における地域社会の変容と住民：20 世紀中東欧を事例に (2011-13 年度)
- 高橋美野梨 境界研究から見る「北極」：デンマークの北極圏戦略と媒介項としてのグリーンランド (2012-14 年度)
- 中山 大将 日本帝国崩壊後の樺太植民地社会の変容解体過程の研究 (2012-14 年度)

研究成果公開促進費（学術図書）

- 高橋美野梨 自己決定権をめぐる政治学 (2013 年度)

◆ **鈴川・中村基金奨励研究員決まる** ◆

2013 年度鈴川・中村基金奨励研究員は以下の通り決定されました [望月] (滞在日程順)

採用決定者・所属	テーマ	希望滞在期間	ホスト教員
Sandrovykh, Tymur 京都大学大学院	ソ連における日本の「家族」のイメージ	2013 年 8 月 2 ～ 19 日	越野
岡野 要 京都大学大学院	南スラヴ諸語の移動動詞の意味体系について (ダイクシス、接頭辞、移動の様態の問題を中心に)	2013 年 8 月 26 日～ 9 月 8 日	野町
大石 侑香 首都大学東京大学院	19 世紀後半から現在までの西シベリア北方諸族の土地・環境利用に関する政策史とそれへの反応：とくにソ連時代の集団化、地下資源開発とその後の環境利用の変遷	2013 年 9 月 2 ～ 17 日	長縄

◆ **ダニレンコ氏の滞在** ◆

2013 年 6 月 1 日から 8 月 31 日まで、米国ペース大学のアンドリイ・ダニレンコ准教授が、日本学術振興会外国人招へい研究者としてセンターに滞在しています。ウクライナ語をはじめとしたスラヴ語研究で知られ、その関心は音韻論から社会言語学まで大変幅広く、各分野で多く引用される重要な研究成果をあげておられます。ダニレンコ氏は、2009 年に続く 2 回目の長期滞在中で、前回はウクライナ文章語形成史の研究をされていましたが、今回はホスト教員の野町と地域言語学・言語類型論の視点からバルカン諸語とウクライナ諸方言の比較分析をおこなっています。この滞在中に、日本スラヴ学研究会、ロシア文学会北海道支部、京都大学文学部などで各種講演会・特別講義が組織され、多くの日本人研究者と交流が持たれてきました。8 月 11 日 (日) と 12 日 (月) にスラブ研究センターでおこなわれた国際ワークショップ「ヨーロッパ言語地図におけるスラヴ諸語：地域・類型論の諸問題」でも研究報告をおこないました。[野町]

◆ **イシャノヴァ、ロクチオノヴァ両氏の滞在** ◆

ユーラシア大学のアシマ・イシャノヴァ (Асима Ишанова) 氏およびコクシェタウ大学のナタリヤ・ロクチオノヴァ (Наталья Локтионова) 氏が、カザフスタンで優れた大学教員に与えられる助成金を利用して、7 月 21 日から 8 月 3 日までセンターに滞在しました。7 月 25 日の研究会 (「研究会活動」欄参照) では、イシャノヴァ氏がカザフ文学の中のポストモダニズムの傾向 (必ずしも外国の影響ではなく内発的に現れたもの) について、ロクチオノヴァ

氏がカザフ人のロシア語詩人パフトジャン・カナピヤノフの創作世界について発表しました。現代カザフ文学についての情報を得る機会がカザフスタンの外では少なく、聴衆の関心と呼んでいました。[宇山]

◆ 専任セミナー ◆

ニュース前号以降、専任セミナーが以下のように開催されました。[野町]

5月9日：岩下明裕「領土問題をいかに解決するか：北方領土から竹島・尖閣へ」
センター外コメンテータ：和田春樹（東京大学名誉教授）

今回提出された論文は、岩下研究員が中心となる GCOE 境界研究の成果を一般向けに開示することを目的としたもので、専任研究員セミナーとしては異例ともいえる 90 頁を超える力作でした。この論文で、岩下氏はこれまで取り組んできた北方領土問題と、日本が抱える尖閣諸島および竹島といった領土問題について、境界という視点から現状を整理し、その問題を米国との同盟関係から読み解くことを試みたものです。コメンテータの和田春樹先生からは、境界に日常的に接している当事者の視線、その主体性を踏まえ分析した点が評価され、特に根室活性化プランなどは説得的であると述べられました。また歴史問題と領土問題を区別するべきという主張も妥当なものとして、岩下氏は総じて高い評価を得たと言えます。その一方で、3つの領土問題がすべて日米同盟の従属変数であるという主張は強すぎるのではないかと考えも述べられました。なお、この論文は朝日新書の『北方領土・竹島・尖閣、これが解決策』として刊行され、既に様々な反応が出ているようです。

6月11日：長縄宣博「イスラーム教育ネットワークの形成と変容：一九世紀から二〇世紀初頭のヴォルガ・ウラル地域」
センター外コメンテータ：秋葉淳（千葉大学大学院人文社会科学研究所）

今回の論文は、橋本伸也編『ロシア帝国における民族知識人と大学（仮）』（昭和堂）に収録予定のものです。本論文では 16 世紀後半からロシアと共生してきたヴォルガ・ウラル地域のムスリムが、はるか後にロシアに編入されたクリミア他のムスリムに比べて「ロシア化」が進んでいないという 20 世紀初頭のムスリム知識人の言説を出発点とし、この地域のウラマーを協力者として束ねる間接統治およびムスリム聖職者の育成の方法とその変容について論じたものです。地域のウラマーの系譜に関しては小松久男氏ほかの先駆的な研究がありますが、大改革以降のロシア自体の変容とイスラーム教育ネットワークの展開（特にプハラからイスタンブルへの知的原泉の変化）を関連付けるという点は課題として残っており、長縄論文ではこの点において独自の成果を挙げているものと言えます。コメンテータにはオスマン帝国史研究の秋葉淳先生をお迎えし、シリア地方やアルメニア人などに関する研究と長縄論文が比較検討され、マドラサ制度がロシアで制度化されなかった理由、この地域のムスリムのカーブル、カイロ、メッカとの関係などの問題が討論されました。また本セミナーには、本学文学研究科の佐藤健太郎先生（西地中海史）、守川知子先生（西アジア史）も出席され、モロッコやイランとの事例を踏まえた活発な議論がおこなわれました。

◆ 研究会活動 ◆

ニュース 133 号以降、センターでおこなわれた諸研究会活動は以下の通りです。ただし、今号で特に紹介したものは省略します。[大須賀]

- 5月29日 N. ジュマディロヴァ (カラガンダ・ボラシヤク大、カザフスタン)、B. ジュヌソヴァ (同)、Zh. バイムルノフ (同)、富田武 (成蹊大)「カラガンダにおける日本人抑留」(学術討論会)
- 5月30日 辛嶋博善 (センター)「未来のつくり方: モンゴル国・市場経済と牧畜社会の若者たち」(北海道スラブ研究会)
- 6月18日 第15回一緒に考えましょう講座 杉下初男 (元長泥区長、伊達方部飯館自治会会長)「飯館村のいま」
- 6月27日 越野剛 (センター)「虐殺の記憶と表象: ベラルーシの戦争文学から」(ユーラシア表象研究会)
- 6月28日 スラブ研究センター第5回公開講演会 田畑伸一郎 (センター)「最近の日ロ経済関係を読み解く」
- 7月5日 領土問題: ジャーナリズムからの提言 若宮啓文 (ジャーナリスト・元朝日新聞主筆)「竹島・尖閣・北方領土」; 若宮啓文、本田良一 (北海道新聞社)、本間浩昭 (毎日新聞社)「ラウンドテーブル」北方領土問題: 過去を検証し、未来を展望する」
- 7月6日 阿部賢一 (立教大)「東欧文学の再定義をめぐって: オルガ・トカルチュク氏招聘と『東』のイメージ研究の展望」; 梅津紀雄 (工学院大)「冷戦と音楽: 米ソ対立と文化交流の実態について」(センター共同研究報告会)
- 7月7日 ロシア語学科村田真一ゼミとの交流会 上智大と北大文学研究科の学生による発表と交流
- 7月11日 R. ジュバンチッチ (リュブリャナ大、スロヴェニア)“Conflict Prevention and the Possibility of Reconciliation in Kosovo” (センター特別研究セミナー)
- 7月12日 受章記念講演会 望月喜市 (北大名誉教授)「私の半世紀にわたるソ連・ロシア研究」
- 7月14日 井上岳彦 (北大文学研究科・院)「カルムイク人はどのように定住化したのか: 帝政期とソ連初期について」(北海道中央ユーラシア研究会)
- 7月16日 第16回一緒に考えましょう講座 「福島以後を大学生・市民の対話で考える」
- 7月22日 J. バーバンク (ニューヨーク大、米国)、F. クーパー (同)“Imperial Pathways: Africa and Russia in the 20th Century” (センターセミナー)
- 7月25日 A. イシャノヴァ “Постмодернистские тенденции в современной казахской литературе”; N. ロクチオノヴァ “Диалог культур в творчестве Бахытжана Канапьянова” (センターセミナー)
- 7月26日 松下隆志 (北大文学研究科・院)「新しいリアリズム: ザハール・プリレーピンの創作をめぐって」(ユーラシア表象研究会)
- 7月31日 I. ザイツェフ (東洋学研究所、センター)「モスクワのムスリム共同体の歴史: アゲエフ家のイマームたち (16世紀から20世紀初頭) (ロシア語)」(センターセミナー)

学 界 短 信

◆ ERINA が英文学術誌を発刊 ◆

環日本海経済研究所 (ERINA) が *The Northeast Asian Economic Review* を創刊し、その第1巻第1号が3月に発行されました。同誌は、北東アジアにおける経済社会問題についての研究論文を掲載する、年2回発行の英文査読誌です。第1号と投稿規程については、下記のサイトから見るすることができます。[田畑]

<http://www.erina.or.jp/jp/Library/naer/index.htm>

◆ 学会カレンダー ◆

2013年10月4日 国立大学附置研究所・センター長会議第3部会シンポジウム 於北海道大学

10月5-6日 2013年度ロシア・東欧学会研究大会 於津田塾大学 (JSSEES との合同大会)

<http://www.gakkai.ac/roto/>

- 10月12-13日 ロシア史研究会 2013年度大会 於明治大学
http://www.gakkai.ac/russian_history/
- 10月23-25日 ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所コンファレンス “Russia and the World”
- 10月25-27日 日本国際政治学会 2013年度研究大会 於朱鷺メッセ
<http://jair.or.jp/event/2013index.html>
- 11月2日 内陸アジア史学会 2013年度大会 於龍谷大学
- 11月2-3日 日本ロシア文学会 2013年度全国大会 於東京大学本郷キャンパス
<http://yaar.jp.org/>
- 11月2-5日 第7回ロシア世界会議 於サンクトペテルブルク
http://yaar.jp.org/?action=common_download_main&upload_id=250
- 11月21-24日 ASEES (スラブ東欧ユーラシア学会) 年次大会 於ボストン
<http://aseees.org/convention.html>
- 12月12-13日 スラブ研究センター冬期国際シンポジウム
- 2015年8月3-8日 ICCEES 第9回大会 於幕張 <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/iccees2015/index.html>

センターのホームページ(裏表紙参照)にはこの他にも多くの海外情報が掲載されています。[大須賀]

図書室だより

◆ 『党建設』、『党生活』、『社会主義経済』のマイクロフィルム購入 ◆

センター図書室は、昨年末、上記3タイトルの雑誌のマイクロフィルムを購入しました。いずれも、ソ連政治もしくは経済に関する基本的な文献と目されるものですが、どうしたわけか、本学では未収だったものです。

『党建設 Партийное строительство』は、『全連邦共産党(ボ)中央委員会通報 Известия ЦК ВКП(б)』の後継誌として1929年11月に創刊。月2回刊とされましたが、当初は安定しなかった模様です。ソ連共産党の公式文書や、党の活動、運営に関する論文を掲載し、1946年の終刊時の発行部数は15万部だったとされます。今回、購入したフィルムは、1929年の創刊時から1941年までを収録します。

『党生活 Партийная жизнь』は、『党建設』の後継誌として、1946年に創刊されましたが、1948年4月から休刊。スターリン没後の1954年4月に再刊され、月2回の頻度で1991年秋まで刊行されました。ソビエト大百科(3版)によれば、1975年の発行部数は100万部とのことです。北海道大学附属図書館は、1973年以降の分をすでに所蔵しますが、今回、マイクロフィルムにより、1954～1967年分を補充することができました。

最後に『社会主義経済 Социалистическое хозяйство』ですが、この雑誌は、国民経済博覧会の雑誌『国民経済 Народное хозяйство』および財務人民委員部の雑誌『財政と経済 Финансы и экономика』が合併することにより、1923年3月に創刊されたものです。1923年には10号が出ましたが、以後は年に5、6回の刊行となり、1930年の3号を出した後、『経済の諸問題 Проблемы экономики』誌に吸収されました。

センターの購入したフィルムは、その発行全期間を収録しています。

なお、この雑誌については、かつて一橋大学経済研究所が、『特殊文献目録シリーズ; no. 17』として、その総目次を出版したことがあります。[兎内]

◆ 附属図書館本館への資料の移動について ◆

センターニュース 133号(2013年5月)でお知らせした資料の移動に続いて、本年6月より、所在が「スラブ研・事務室(欧文)」および「スラブ研・百済氏」および「スラブ研・工藤氏」の資料の大部分、あわせて13,000冊余を、附属図書館本館4階の洋書書庫などに移動する作業を進めています。そのため、7月16日以降、対象資料の利用を一時停止させていただきました。作業は、8月下旬に終了し、本館書庫資料として、同月30日に利用を再開する予定です。

これとは別に、21世紀COEプログラムで収集したロシアの学校教科書218冊について、この6月に附属図書館本館書庫1Fの教科書コーナーに移動しましたことを、併せてお知らせします。[兎内]

編集室だより

◆ 『スラヴ研究』 ◆

『スラヴ研究』第61号(2014年春刊行予定)の原稿締切は、8月末です。ホームページに掲載されている投稿規程・執筆要領等を熟読のうえ、締切厳守でご提出ください(事前申し込みは不要です)。力作をお待ちしております。[長縄]

会議 (2013年6月～7月)

◆ センター共同利用・共同研究拠点運営委員会 ◆

2013年度第1回 7月6日

議題

1. 共同利用・共同研究拠点の活動について
 - a. 2012年度活動報告 プロジェクト型公募共同研究・共同利用型個人研究
 - b. 2013年度活動状況 プロジェクト型公募共同研究・共同利用型個人研究
2. その他

◆ センター協議員会 ◆

2013年度第1回 6月11日

議題

1. 2012年度支出予算決算について
2. 2013年度支出予算配当(案)について
3. 教員の人事について
4. 教員の研究休職について
5. 研究生受け入れについて
6. その他

2013年度第2回 7月23日

議題

1. 教員の人事について
2. その他

[事務係]

誰が何をどこで

前号の補遺

前号で2012年1～12月の各研究員の業績・余滴を掲載しましたが、事務処理の都合上、年度別にまとめる必要がでてきたため、来年度から4月～3月ごとにまとめることにします。その経過措置として、今号で2013年1～3月の業績を各自の申告により掲載します。[大須賀]

宇山智彦 ① 1 学術論文 ▼セミパラチンスク州知事トロイニツキーとカザフ知識人弾圧：帝国統治における属人的要素（中嶋毅編『新史料で読むロシア史』74-91, 山川出版社） ② 2 その他業績（論文形式） (5) その他 ▼Central Eurasian Studies in Japan: A Combination of Russian and Oriental Studies, *NewsNet* (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies), 53(2):11-12 ▼ロシア語文献から見るバミール近代史：研究の歴史と論点（澤田稔編『近現代の中央アジア山岳高原部における宗教文化と政治に関する基礎研究 研究成果報告書』5-10, イスラーム地域研究東京大学拠点） ③ 5 学会報告・学術講演 ▼中央アジアから「北の国」へのまなざし：近代知識人のロシア観を手がかりに、東洋文庫企画展「もっと知ろう、もっと北の国 II：中央アジアからのまなざし」記念公開講座、東京（2013.2.16）

貝澤哉 ① 1 学術論文 ▼哄笑される悲劇、あるいは小説は存在しない：ミハイル・バフチンの小説論における「悲劇」と「笑い」について『早稲田現代文芸研究』3:36-49 ② 4 その他業績（著書形式） ▼『NHK テレビ テレビでロシア語』4月号（NHK 出版）

木山克彦 ① 1 学術論文 ▼（白杵勲、千田嘉博、正司哲朗、A. エンフトゥルと共著）チントルゴイ城址とその周辺遺跡（荒川慎太郎他編『契丹 [遼] と10～12世紀の東部ユーラシア』205-220, 勉誠出版） ② 5 学会報告・学術講演 ▼（白杵勲、Yu.G. ニキーチンと）극동지역의 초기철기시대-러시아 연해지방 엘리자베토크카 (Елизаветовка) 1 유적의 조사로부터, 동아시아 考古學의 最前線-最新 海外調査에 바탕한 農耕과 非農耕 地域의 比較研究, 嶺南大学, 慶山, 韓国 (2013.2.2) ▼（白杵勲、千田嘉博、A. エンフトゥルと）몽골草原의 都市遺蹟-친톨고이 성最前線-最新 海外調査에 바탕한 農耕과 非農耕 地域의 比較研究, 嶺南大学, 慶山, 韓国 (2013.2.2) ▼（白杵勲、Yu. G. ニキーチンと）ロシア沿海地方エリザベトフカ1遺跡の調査, 第14回北アジア遺跡調査報告会, 石川県立歴史博物館 (2013.2.9) ▼（千田嘉博、正司哲朗、白杵勲、A. エンフトゥルと）モンゴル中世城郭の3次元計測調査, 第14回北アジア遺跡調査報告会, 石川県立歴史博物館 (2013.2.9)

越野剛 ① 3 著書 ▼（望月哲男と共編）*Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries* [比較地域大国論集13] 198（スラブ研究センター） ② 5 学会報告・学術講演 ▼ナポレオンのモスクワ遠征とロシア・イメージの変容, 東洋文庫企画展「もっと知ろう、もっと北の国 I：帝政ロシアの実像」記念公開講座, 東京（2013.1.27）

田畑伸一郎 ① 1 学術論文 ▼「序章 地域大国研究の視座」：「外貨準備の蓄積とグローバル・インバランス」（上垣彰、田畑伸一郎編著『ユーラシア地域大国の持続的経済発展』[シリーズ・ユーラシア地域大国論1] 1-9, 13-33, ミネルヴァ書房） ② 3 著書 ▼（上垣彰と共編著）『ユーラシア地域大国の持続的経済発展』[シリーズ・ユーラシア地域大国論1] x, 268（ミネルヴァ書房）

宍内勇津流 ① 2 その他業績（論文形式） (2) 研究ノート等 ▼データベースによる「トルキスタン集成」の構成分析『CIAS Discussion paper』34:13-18 ② 3 著書 ▼（共編著）『環オホーツクの環境と歴史』第2号, 101（サッポロ堂書店） ③ 5 学会報告・学術講演 ▼南サハリンにおけるD.N. クリュコフの行政と日本人社会, 国際シンポジウム「ユーラシアにおける移民と帰国者」, 北海道大学情報教育館, 札幌 (2013.2.11) ▼19世紀のサハリン, 東洋文庫企画展「もっと知ろう、もっと北の国 III：北海道とサハリン」記念公開講座, 東京 (2013.2.17) ▼ヨーロッパ史の文脈から見たアレクサンドル1世期ロシアの宗教政策, 「プラトンとロシア」研究会, 神戸市外国語大学 (2013.3.8)

豊川浩一 ① 1 学術論文 ▼近世ロシアの民間習俗をめぐる国家・教会・社会：シンピルスクの「呪術師（魔法使い）」ヤーロフの事件とその背景『駿台史学』147:127-167 ▼日露戦争前夜の鷗外と宣教師ニコライ（『報告論集 多面体としての『森鷗外』：生誕150周年に寄せて』35-48, 明治大学文学研究科）

長縄宣博 ① 1 学術論文 ▼ロシア・ムスリムがみた20世紀初頭のオスマン帝国：ファーティフ・ケリミー『イスタンブルの手紙』を読む（中嶋毅編『新史料で読むロシア史』92-110, 山川出版社） ▼近代帝国の統治とイスラームの相互連関：ロシア帝国の場合（秋田茂、桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』158-184, 大阪大学出版会）

野町素己 ¶ 2 その他業績 (論文形式) (5) その他 ▼ Относно съживяването на банатско-българския език в сръбски Банат (セルビア側バナトにおけるバナト・ブルガリア語の再生に寄せて), *Литературна мисъл*, 149:6-13

林知行 ¶ 2 その他業績 (論文形式) (1) 総説・解説・評論等 ▼ スロヴァキア政党政治における「第二世代改革」: 遅れてきた新自由主義の「成功」と「定着」(村上勇介、仙石学編『ネオリベラリズムの実践現場: 中東欧とラテンアメリカ』135-162, 京都大学学術出版会) (3) 書評 ▼ 百瀬宏著『小国外交のリアリズム: 戦後フィンランド1944-48年』(岩波書店, 2011年)『国際政治』172: 169-172

福田宏 ¶ 2 その他業績 (論文形式) (3) 書評 ▼ 書評: 松本彰『記念碑に刻まれたドイツ: 戦争・革命・統一』(東京大学出版会, 2012年)『新潟日報』(朝刊) 22 (2013.2.3)

本田晃子 ¶ 1 学術論文 ▼ Post-Soviet Architecture: Future-phobia, *Japanese Slavic and East European Studies*, 33:3-16

松里公孝 (前号での掲載が間に合わなかったため, 2012.1-2013.3) ¶ 1 学術論文 ▼ The Creation of the Priamur Governor-Generalship in 1884 and the Reconfiguration of Asiatic Russia, *The Russian Review*, 71(3):365-390 ▼ Столыпинская аграрная реформа и формирование инфраструктуры тотальной войны в российской деревне (Н.Ф. Гриценко, ред., П.А. Столыпин и исторический опыт реформ в России: К 100-летию со дня гибели П.А.Столыпина, 205-224, Москва: Русский путь) ▼ (Stepan Danielyan と) Faith or Tradition: The Armenian Apostolic Church and Community-Building in Armenia and Nagorny Karabakh, *Religion, State & Society* 41(1):18-34 ▼ 環黒海地域における跨境政治: 非承認国家の宗教と跨境マイノリティ (塩川伸明、小松久男、沼野充義編『ユーラシア世界5 国家と国際関係』161-181, 東京大学出版会) ▼ (田原史起と)「地方ガバナンスにみる公・共・私の交錯」:(中溝和也と)「民族領域連邦制の盛衰」:「一国地域研究を越えて」(唐亮、松里公孝編著『ユーラシア地域大国の統治モデル』[シリーズ・ユーラシア地域大国論2] 151-179, 260-283, 320-338, ミネルヴァ書房) ▼ 政治学者のインタビュー (中嶋毅編『新史料で読むロシア史』320-338, 山川出版社) ¶ 3 著書 ▼ (唐亮と共編著)『ユーラシア地域大国の統治モデル』[シリーズ・ユーラシア地域大国論2] x, 313 (ミネルヴァ書房) ¶ 5 学会報告・学術講演 ▼ A Typology of Muslim Administration in Non-Arab Peripheries: China, Turkey, India, and Russia, talk at West Coast Seminar, Glasgow University (2012.6.12) ▼ The Rise and Fall of Ethno-territorial Federalism: A Comparison of the Soviet Union (Russia), China, and India, International Conference "Territorial Politics in Western and Eastern Europe," Edinburgh University (2012.6.14-15) ▼ The Rise and Fall of Ethno-territorial Federalism: A Comparison of the Soviet Union (Russia), China, and India (民族-区域联邦主义的兴衰: 俄罗斯、中国、印度的比较), 華東師範大学ロシア研究センター/ICCEES 共催セミナー, 上海 (2012.9.2) ▼ Politics of Vulnerability: South Ossetia in the Context of Conflict Regulation, 1990-2008, 4th East Asian Conference on Slavic and Eurasian Studies "The Image of the Region in Eurasian Studies," Maulana Abul Kalam Azad Institute of Asian Studies, Kolkata (2012.9.4-5)

▼ Азиатская Россия: геополитика и территориальное управление, Conference "Региональное управление и проблема эффективности власти в России (XVIII - начало XXI вв.)," Orenburg, Russia (2012.10.30-11.2) ▼ Contextualized Violence: Politics around the so-called War on Terror in Dagestan, 第15回北海道大学・ソウル大学ジョイントシンポジウム分科会「ポスト・ソ連諸国の政治状況」(2012.12.8)

▼ 総督制を通じたロシア帝国の統合: 西における民族操作、東における空間操作, 東洋文庫企画展「もっと知ろう、もっと北の国 I: 帝政ロシアの実像」記念公開講座, 東京 (2013.1.27)

望月哲男 ¶ 1 学術論文 ▼ Опыты литературного освоения ландшафта: по поводу одной литературной экспедиции по Поволжью в дореформенной России (Nakamura Tadashi, ed., *Imagining the Landscape: Views from Armenia and Japan* [比較地域大国論集12] 27-41, スラブ研究センター)

¶ 2 その他業績 (論文形式) (3) 書評 ▼ 法橋和彦著『古典として読む「イワンの馬鹿」』(未知谷, 2012)『図書新聞』5 (2013.1.19) (4) 翻訳 ▼ フョードル・ドストエフスキー著『死の家の記録』741 (光文社古典新訳文庫) ¶ 3 著書 ▼ (越野剛と共編) *Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries* [比較地域大国論集13] 198 (スラブ研究センター)

みせらねあ

◆ 人物往来 ◆

ニュース 133 号以降のセンター訪問者（客員、道央圏を除く）は以下の通りです（敬称略）。
[宇山／大須賀]

- 5月29日 Zhanbolat Baimurynov（カラガンダ・ボラシヤク大、カザフスタン）、Nurlan Dulatbekov（同）、Elena Katasonova（東洋学研究所、ロシア）、Nurshat Zhumadilova（カラガンダ・ボラシヤク大）、Baian Zhunusova（同）、富田武（成蹊大）
- 6月18日 杉下初男（元長泥区長、伊達方部飯館自治会会長）
- 7月4日 Viktor Smagin（東京大）
- 7月5日 若宮啓文（ジャーナリスト・元朝日新聞主筆）
- 7月6日 阿部賢一（立教大）、梅津紀雄（工学院大）
- 7月7日 村田真一（上智大）ほか、上智大学生の皆さん
- 7月11日 Rok Zupančič（リュブリャナ大、スロヴェニア）
- 7月25日 福安佳子（カリフォルニア大、米国）
（サマースクール、夏期国際シンポに来られた方は次号に掲載します。）

◆ 研究員消息 ◆

野町素己研究員は2013年4月4～9日の間、BASEES・ICCEES国際合同会議にて研究報告のため、英国に出張。

田畑伸一郎研究員は6月12～19日の間、第6回北東アジア地域協力国際フォーラムにて研究報告及び意見交換、資料収集のため、中国に出張。

ウルフ・ディビッド研究員は6月26日～7月19日の間、資料収集のため、米国に出張。

望月哲男研究員は7月7～14日の間、国際ドストエフスキー学会への参加のため、ロシアに出張。

家田修研究員は8月11日～9月2日の間、現地調査及び資料収集のため、ハンガリー、英国に出張。

[事務係]



今回の夏期国際シンポジウム終了後のエクスカーションは、野幌の北海道開拓の村へ行きました。

写真は、開拓記念館の入り口にて。

月遅れのたなばたの笹飾りが見えます。

目 次

グローバル COE.....	1
第4回国際サマースクールの開催／夏期国際シンポジウムの開催／第9期展示「境界研究：日本のパイオニアたち」開催中	
研究の最前線.....	2
北大祭期間中に研究所一般公開を開催／共同研究員／2013年度科学研究費プロジェクト／鈴木・中村基金奨励研究員決まる／ダニレンコ氏の滞在／イシャノヴァ、ロクチオノヴァ両氏の滞在／専任セミナー／研究会活動	
学会短信.....	8
ERINA が英文学術誌を発刊／学会カレンダー	
図書室だより.....	9
『党建設』、『党生活』、『社会主義経済』のマイクロフィルム購入／附属図書館本館への資料の移動について	
編集室だより.....	10
『スラヴ研究』	
会議.....	10
センター共同利用・共同研究拠点運営委員会／センター協議員会	
誰が何をどこで（前号の補遺）.....	11
みせらねあ.....	13
人物往来／研究員消息	

2013年8月20日発行

編集責任	大須賀みか
編集協力	家田修／望月哲男
発行者	宇山智彦
発行所	北海道大学スラブ研究センター 060-0809 札幌市北区北9条西7丁目 Tel.011-706-3156、706-2388 Fax.011-706-4952 インターネットホームページ： http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/
